



甚大な被害を受けた岩手県宮古市田老地区（2011年4月8日撮影）

東日本大震災



# 宮古市、名取市へ 市職員を派遣

## 被災公共団体に対する人的支援

東日本大震災の被災地支援の一環として、4月7日から10日まで岩手県宮古市に市職員3人を、14日から18日まで宮城県名取市に市保健師2人、市職員1人を派遣しました。宮古市では、全国から送られて来る救援物資の納入、仕分け、搬送作業の支援を行い、名取市では避難所で被災者の健康相談や心身のケアなどの支援を行いました。市では、今後も被災地の要望に応じて、人的支援として随時職員を派遣する予定です。今回、派遣を終えた市職員の報告を紹介します。

### ―宮古市

（総務課 天坂隆仁係長）

救援物資が運び込まれる新里トレーニングセンターには次々とトラックが到着し、宮古市内6地区ごとに仕分け、避難所へ搬送するため自衛隊のトラックへの積み込み作業がほぼ途切れなく続けられました。中には海外からの救援物資も有りでした。期間中は野菜や缶詰など食料品が主に届き、月日とともに被災者の求めるものも変わってきているようでした。

現地でお会った人は、直接の被災を免れた人がほとんどでし



救援物資の中継基地・新里トレーニングセンター



地元ボランティアと共同作業



派遣された(左から)一戸主事、天坂係長、小関主事

た。友人や職などを失った方ばかりでしたが皆さんの前向きな姿勢に心を打たれました。短い期間でしたが、少しでも被災地の環境が改善できればと思いい帰路につきました。

### ―名取市

（健康推進課 佐々木瑞穂保健師）

私たちが訪れた避難所には特に被害が大きかった閉上地区の方が多く、家族や家など大切なものをなくされていました。被災された方は、まだまだ寒い体育館で心身の疲労を抱えながら集団生活を送っていました。私たちも避難所に寝泊まりしながら



避難所の名取第一中学校体育館



福島市長に派遣の報告をする(左から)米谷主任保健師、佐々木保健師、浅井主事

ら①感染症対策②慢性疾患や服薬への対応③日常生活支援④精神的支援などの支援活動を行いました。いつもの人達といつもの所でいつもの生活を送る「日常」というものが、とてもかけがえのないものだと思われ、それを地震により失った被災地の方々の心情を思うと言葉になりませんでした。力不足でしたが、今回の経験を今後の業務に役立てたいと思います。